



見えない支え

大田区立羽田中学校 三年 宮田 奈々

私には税金に助けられたことがあります。

私の所属している部活は吹奏楽部です。つい先日夏のコンクールが終わり、大きな活動の区切りが過ぎました。コンクールでは個人的に納得のいく良い演奏が出来ましたが、もちろんそれまでには失敗も多くありました。

その内の一つは、楽器を壊してしまったことです。これはもう二年ほど前のことですが、ある日、楽器を置くときに手が滑り、地面へと落ちてしまいました。そのときは気にも留めていませんでしたが、片付けのときに気が付きます。なんと、楽器の部品であるマウスピースが取れないのです。私は焦りました。先生に怒られること。楽器が吹けなくなること。そして何より親に迷惑がかかってしまうこと。私は思い切り力を入れ、マウスピースを外そうと試みますが、マウスピースはビクとも動きません。意を決し、先生に謝りに行くことにしました。

勇気をふり絞り、先生に話しかけます。事の経緯を話し終わった後、もちろん叱りを受けました。どう責任を取るつもりなのかと問われたとき、私は無責任に「弁償します。」と答えました。ですが、その代金は学

校が持ってくれるとのことでした。親に迷惑がからないことを知り、私は安心しました。心配していたことの一つがなくなり、それからしっかり反省し、楽器を大切に扱うようになりました。名前も付け、愛着が湧き、今では私の大事な相棒です。次にこの楽器を吹く人にも大切にされるよう、これからもお手入れを念入りに行おうと思います。

最初こそ楽器を吹いて将来何の役に立つのかと疑問に思いながら入った部活ですが、社会のルールやマナーを間接的に学ぶことが出来るという点に後から気付きました。物を壊してはいけないということもそのルールやマナーの一つです。そんなの当たり前だろうと思う人もいるかもしれませんが、人は痛い目を見ないと完全に学ぶことができません。根拠は私の実体験です。何度も楽器を大切にしろと言われてきたのに、楽器を壊してしまいました。このように失敗し、挫折しかける経験が得られるのは部活動のおかげであり、その部活動を運営できるのは、先生や税金のおかげであります。楽器は種類によって値段が様々ですが、安いもので五万円ほどで、高いものだと余裕で百万円を超えます。それらを自費負担となったら、誰も部活動に入らなくなるでしょう。

この経験から私は、普段当たり前だと思っていることでも、そこには税金の支えがあることを再確認しました。これからは当たり前前のことにも感謝できる人間になりたいなと思います。